

山本純一研究会・笠井ゼミ合同合宿

1) 概要

本大学の研究会である山本純一研究会と龍谷大学のゼミである笠井ゼミの間で合同の研究発表会と現地調査を行った。笠井ゼミの笠井先生はかつて山本純一研究会に所属していたことからこの合同合宿は行われるようになり、山本純一研究会はフェアトレードについて、笠井ゼミでは主にまちづくりについて研究しているため、互いの研究は全く同じというわけではないが、地域振興などの点で被る点があり、お互いの研究成果を発表し合うことは大きな刺激となった。

合宿では、山本純一研究会のメンバーが実際に龍谷大学のある滋賀に向かい、現地に宿泊し、研究発表や現地視察を行った。シンポジウム・研究ネットワーキングミーティング基金は合宿を行う上で山本純一研究会のメンバーの交通費などに使われた。

2) 訪問先と現地調査期間

滋賀県大津市瀬田 龍谷大学

2014年2月3日～5日

3) 合同発表会及び現地調査報告

合同発表会（3日～4日）

合同発表会では、龍谷大学の4回生と慶應大学の4年生が卒業論文を、慶應大学の2・3年生が期末論文を発表し、龍谷大学の3回生は各自が自身の研究内容を一枚のポスターにまとめて発表するという形式のポスター発表を行った。発表会では両大学の生徒が互いの発表にも多めに質問やコメントをして非常に盛り上がり、発表会の最後には全員の投票で優秀論文の選出なども行った。

山本純一研究会の発表ではフェアトレードタウン運動について取り上げた日本のフェアトレードタウン増加についての発表であったり、世界の紙産業におけるフェアトレードの進出についての発表であったりなど、大きな枠組みについての発表が多かったのだが、龍谷大学の生徒の発表は自分の住む町の振興運動についての発表だったり、自分の家族のオーラルヒストリーについての発表だったりなど、身の回りについての発表が多かったため、普段自分たちの研究会で行っている研究とは毛色が大きく異なり、新鮮に感じた。



現地視察（4日・5日）

現地視察では、龍谷大学の笠井ゼミの研究で使われている瀬田市内の民家や実際に活動している町家キャンパスなどを視察して回った。2日目の朝に行ったかたつむり邸は、笠井ゼミで民家の一部を借りて使っている施設であり、地域住民との交流や町おこしで行われる祭の企画会議などで使われている。合同発表の時にも感じたが、龍谷大学で行われている研究は身近なものや実地で行っているものが多く、非常に勉強になった。

